

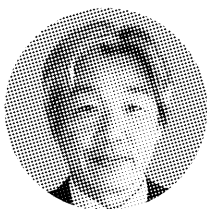
# 課題に挑む

技術士のソリューション

[29]

## 食品安全委員会

食品の安全性をめぐる事件が多く報道される中で、食品健康影響評価機関として平成15年(2003年)に内閣府に設置された「食品安全委員会」の存在を知っている人は少ないかも知れない。筆者が長く務めた遺伝子組換え食品等専門調査会を含め、14の専門調査会を下部組織に持つ食品安全委員会は7人で構成され、委員長任命は国会



## 東京農工大学教授

丹生谷 博 (生物工学部門)

安全技術⑧

## 食品の安全性

同意人事である。

### 人事に政治介入

09年6月に、3期目の新委員として推薦されていた東大教授の人事が、当時の野党4党の反対により流れてしまった。それまでプリオン専門調査会の座長を務めた当該教授について、野党の主張

つたことは、その後に見られたマニフェストに、全頭検査の国庫補助金を復活し、食の安全・安心を確保すると謳っていることから明白である。

### 消費者庁の役割

政治的介入の重大性を認識した科学者らは、日本学術会議会長名で「『食品安全のための科た小泉直子氏は、食品安

## リスク評価・管理の区別を

### 担当閣僚の舵取りに期待

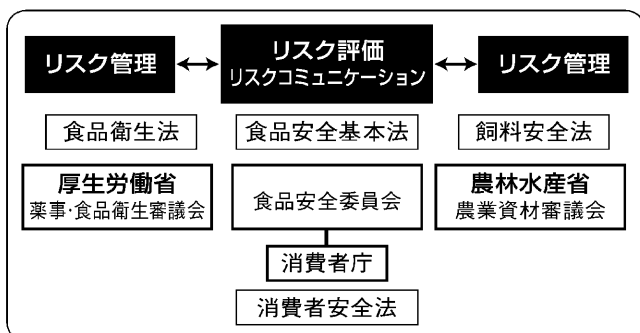
は「米国・カナダ産牛肉輸入再開の後押しをした重大な責任があり、調査会委員の半数の辞任を引き起こした人物」とのことであった。

全委員会の「独立性と中立性」の重要性を重ねて訴え、参議院での人事否決について「断腸の思い」と語った。さらに、内閣府特命担当相として出席した野田聖子氏は、

民主党がBSE(牛海綿状脳症)問題を重視する姿勢をアピールしたか

「ややもすると政治は感情的になり、または大衆迎合となり、本質を見失ったところで暴走する傾向が心配します」と述べ

た(議事録より)。皮肉なことに、政権交代の組閣後には社民党の福島瑞穂氏が食品安全委員会担当相に就任し、9月の委員会で「新たに設置された消費者庁担当大臣としても併せて食の安全に全力で取り組む」との挨拶後退席せず、安全性評価が継続中の特保



サラダ油について質問を挟むなど多大な関心を示した。案の定、10月に消費者庁は、このサラダ油の特保見直し再審査を強硬に進めようとしたのである。消費者庁は食品表示を所掌し、リスク管理機関と消費者の間立つ「リスクコミュニケーション」の調整を期待されて

(水曜日掲載)